



山村留学

やさか みあさ

八坂美麻学園

自然に学ぶ 暮らしに学ぶ



公益財団法人 育てる会



もくじ

- 02・03 もくじ・育てる会の山村留学のねらい
- 04・05 学園概要・学園所在地とアクセス
- 06・07 八坂美麻学園の山村留学システム・指導員や保護者のかかわり
- 08・09 センターでの生活・たくさん歩いてたくさん遊ぶ
- 10・11 その季節と土地ならではの体験活動・学園の四季
- 12・13 地域家庭での生活・特色ある少人数の学校
- 14・15 山村留学生の食事・学園生の心がまえ



育てる会の山村留学のねらい

体験活動を通して自分の個性特性・可能性を見出し、
自らを自らの力で育てる子どもに

育てる会は、1976年に長野県大町市八坂地区（旧北安曇郡八坂村）で日本初となる一年間の山村留学を始めました。

山村留学は、小中学生が自分の意志で親元を離れ、自然豊かな農山村に一年単位で移り住み、地域の公立学校に通学しながら「日々の暮らし」を体験する総合教育活動です。

育てる会の山村留学では、年間を通して、山村留学センターでの集団生活と地域の一般家庭へのホームステイを交互に繰り返し、自然体験や農村文化体験を積み重ねます。

こういった体験の積み重ねは、すぐに目に見える結果が出るものではありませんが、一人ひとりの長い人生において、やがて様々な芽を出すための土壌となるでしょう。こうして育まれた芽を自らの力で育てていくことが、その子の人生を豊かなものにしてくれるものと、私たちは考えています。



学園概要

ゆたかな自然のなかで

八坂美麻学園の拠点となる山村留学センターは、北アルプスの玄関口・信濃大町駅から車で15分ほどのところ、大町市八坂地区（旧北安曇郡八坂村）と美麻地区（旧同美麻村）の境界近くにあり、標高はおよそ1,000メートルです。

自然観察ビジターセンターや農村文化体験古民家、水車小屋、ならの森キャンプ場などが併設されており、山村生活体験と自然体験活動の拠点にもなっています。

八坂美麻地区を心のふるさととした修園生数は延べ1,400名を数え、家族ぐるみの長い心のお付き合いが続いています。

「農の心 人をつくる」という考えから生まれた山村留学のモデルとして、全国からも注目されている学園です。



学園所在地とアクセス

八坂美麻学園

山村留学センター（やまなみ山荘）

〒399-7301 長野県大町市八坂8594-ロ

TEL : 0261-26-2306

FAX : 0261-26-2839



JR特急利用の場合
※信濃大町より車で15分

新宿駅より
名古屋駅より

特急にて信濃大町まで約3時間
特急にて信濃大町まで約2時間半



車利用の場合
※中央道・長野道

東京より約3時間
名古屋より約2時間半

安曇野ICより国道147経由で約45分



八坂美麻学園の山村留学システム

3つの体験の場ですごす「学園方式」

八坂美麻学園の山村留学は、月の半分（年間約170日）を山村留学センターで過ごし、残り半分（年間約140日）をホームステイ先で過ごす「学園方式」です。

山村留学生は、センターおよびホームステイ先から、地域の公立小中学校に通学します。

センターでの多彩な体験と集団生活、ホームステイでの本物の地域体験、小規模校でのきめ細やかな学校生活。

これらが三位一体となって豊かな体験の場を提供するのが、学園方式の最大の魅力です。

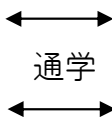
八坂美麻学園

センターでの生活

- ・専任指導者と共に集団生活
- ・センター独自の体験活動

地域家庭での生活

- ・数人でのホームステイ
- ・地域行事への参加



通学

現地の公立 小中学校

- ・小規模校での授業
- ・地域の子との交流
- ・地域活動への参加



指導員や保護者のかかわり

子どもたちの原体験をともに見守りながら

指導員は、1人の人間として、そして子どもの一つの環境として、常に後ろに立って見守り、子どもたちが自ら考え、行動し、学んでいくことができるように助言します。

指導員の出身大学や専攻分野は幅広く、教員資格をもつ者はもちろん、山村留学経験者、自然体験キャンプ（夏冬春休みの短期活動）経験者も少なくありません。

さまざまな価値観をもった指導員がかかわることで、子どもたちの可能性の輪も広がります。

保護者も、保護者会として学園と連携し、農家訪問、学校訪問、収穫祭等の来園行事の度に現地を訪問します。平均すると2ヶ月に1回は来園する機会があります。

留学をする子どもたちだけでなく、ご家族にとっても、自然や農村文化にふれながら多くの交流を生む体験になることを願っています。



センターでの生活

ひとつ屋根の下、みんなで暮らし、協調性を育む

山村留学の拠点となる山村留学センターでは、男女別の大部屋で小中学生が共に暮らし、縦割りの班に分かれて掃除や係の活動をしなが、規則正しい共同生活を送ります。

初めて出会う子どもたちが、互いに意見を交わしながらお互いを認め合い、いつしか子どもたちはきょうだいのように支え合い、助け合うようになります。

テレビ、スマホ、マンガなどのない毎日ですが、何もないからこそ遊びを工夫するようになり、仲間や自分と向き合う時間も生まれます。

6 : 0 0	起床 朝のつどい（ラジオ体操、自然の話）
6 : 3 0	配膳、朝食
7 : 0 0	登校（徒歩片道4～5 k m）
1 6 : 0 0～	帰宅、宿題、入浴、自由時間
1 8 : 3 0～	配膳、夕食 係の仕事、洗濯、整理整頓、自由時間
2 1 : 0 0	小学生就寝
2 2 : 3 0	中学生就寝



たくさん歩いてたくさん遊ぶ

四季の変化を肌で感じながら

センター期間中は、約4～5kmの山道を毎日歩いて通学しています。歩くことは足腰が強くなって体力がつくだけでなく、身近な自然への気づきを促し、豊かな心の醸成にも繋がります。

また、登下校は四季の自然を身近に感じながら、自分たちだけの「道草」をして過ごす、特別な時間でもあります。

朝のつといで指導員が投げかける道草のヒントは、子どもたちを身近な自然へ導きます。



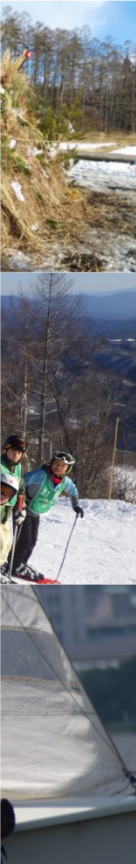
その季節と土地ならではの体験活動

地域との交流をはかり、農村の生活文化を学ぶ

センター期間中の休日は、田畑での農作業、自然体験・食文化体験、伝統行事など、地域の人々とのふれあいを重視しながら、地域の特徴をいかした四季折々の活動を行います。

農作業は自給自足をめざすものではなく、体験活動の一環として、昔ながらの手作業で先人の苦労や知恵を体感しています。この体験をさらに、収穫の祈りや感謝、喜びをあらわす太鼓や民舞などの伝承文化体験につなげます。

また、夏にはキャンプやアルプス登山、諏訪湖でのヨット・カヌー、冬には近隣スキー場でのアルペンスキーなど、季節と地域に合わせた野外活動にも力を入れています。



学園の四季

4月	入園のつどい 田畑起こし 農家対面式	稲刈り・脱穀 木の実採り きのこ採り	10月
5月	保護者農家訪問 代かき・田植え 山菜採り・味噌作り	収穫祭	11月
6月	畑作業・キャンプ ヨット・カヌー活動	炭焼き原木切り出し 座禅体験 保護者懇談会	12月
7月	保護者懇談会 実家帰省	スキー 炭焼き	1月
8月	夏休み 帰園	スキー・交流会 親子スキー	2月
9月	アルプス登山 日本海活動 運動会	スキー 修園のつどい お別れ会	3月



地域家庭での生活

お客様ではなく、家族の一員として

人と自然とのつながりを大切にしながら八坂地区・美麻地区で暮らしを営む方々が、山村留学生の「父さん」「母さん」としてお世話をしてくださっています。

子どもたちはステイ先の父さん、母さんに料理を教わったり、農作業をお手伝いしたり、地域の行事に参加したりすることで農村文化を体験します。ステイ先は子どもたちの第二のふるさととなり、留学を終えて地元に戻った後も、保護者の方もふくめて親しい交流が続いています。

受け入れ家庭は定期的にセンターで会合を行い、子どもたちの様子や出来事などの情報を指導員と共有し、ともに見守ってくださいます。



特色ある少人数の学校

**全校児童生徒、教職員が顔見知り
地域一体型の小規模校で学ぶ**

八坂地区にある八坂小中学校、美麻地区にある美麻小中学校（ともに小中一貫・義務教育学校）のいずれかに通学します。

1学年1学級の小規模校のため、教職員も含めて全校生徒が顔なじみ。きめこまやかな指導を受けながら、体験的な地域学習を多く取り入れ、地域の方々に見守られながら、アットホームな雰囲気の中で学びます。

また、学校運営協議会制度（コミュニティスクール）を取り入れ、地域住民が学校を支えながら特色ある学校づくりをしています。



山村留学生の食事

楽しく、好き嫌いなく、感謝の気持ちをもって

子どもたちは農作業、伝承文化、食文化のつながりを実感しながら、感謝の気持ちを大切に日々の食事をいただきます。

普段の食事は自炊ではありません。センターでは食育担当の職員が新鮮な野菜など地元の食材を取り入れた栄養バランスの取れた献立を立て、地元の方といっしょに調理をしています。

配膳などは留学生が行い、食育指導の一環として、作法にも気をつけながら全員が顔を合わせていただいています。



学園生の心がまえ

1. 山村留学中は、いつも自分の足で歩くよう努力し、自然の中でたくさん活動し、「ここでしかできないこと」をたくさんします
2. あいさつや、礼儀作法、言葉づかいに気をつけ、「自分のことは自分でやる」けじめのある生活をします
3. 山村留学生活に必要なもの以外、必要以上に多く物を持たず、物を大切にし、無駄なお金を使わない「がまん」する生活をします
4. 食事は好き嫌いなく、残さず味わって食べ、感謝の気持ちを忘れないようにします
5. 自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えながら過ごすように努力します。特に、周りで困っていたり、悩んでいる人のことをみんなで考え、お互いを認め合いながら助け合って生活します
6. 自分の目標をもって生活し、収穫祭や修園のときには、成長や成果を、自分の言葉と大きな声で堂々と発表します



公益財団法人育てる会
<https://www.sodateru.or.jp>

八坂美麻学園
〒399-7301 長野県大町市八坂 8 5 9 4 - ロ
電話 0261-26-2306 Fax 0261-26-2839

東京本部
〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1 - 6 - 7 - 5 F
電話 0422-56-0151 Fax 0422-56-0351